

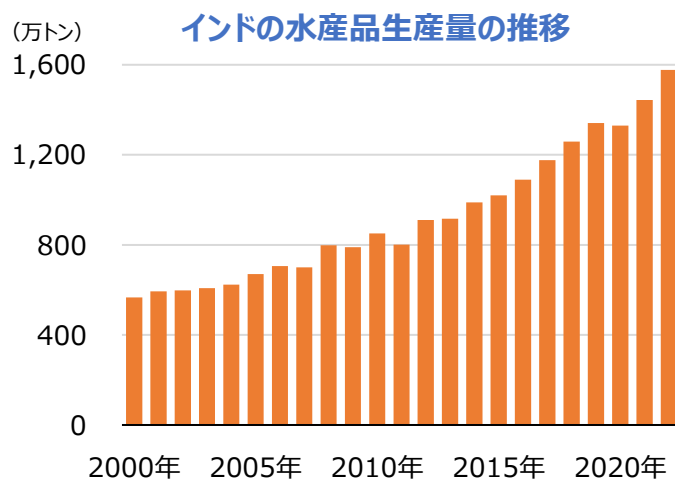
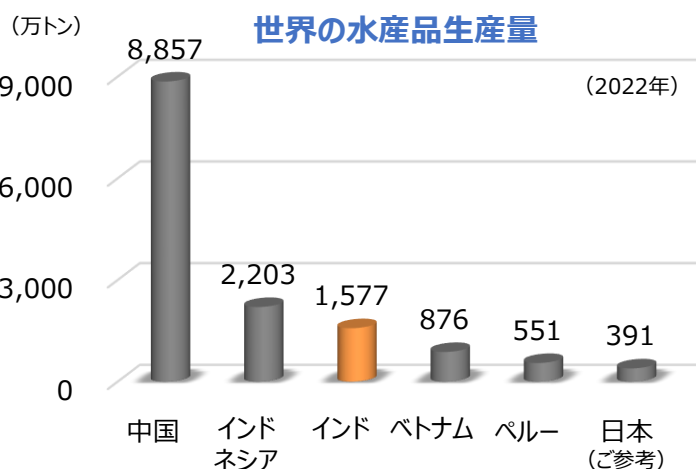
日本の食卓でぷりぷりのエビを食べられるのはインドのお陰  
知られざるインドの水産パワー！

## パワフル・インド（政策関連） ～政府は水産品輸出の拡大を目指す～

## ▶ 水産品生産量は拡大、世界3位

モディ政権は、「自立したインド（Self Reliant India）」政策を掲げ、製造業やインフラ整備などに力を入れています。特に、独立後100周年を迎える2047年までに先進国の仲間入りを目指すインドは、全産業の発展が必要となります。水産業の発展もその中のひとつで、2016年に始まった水産業振興策「青の革命」では、港湾インフラの開発や、養殖場や検疫施設の設置事業への補助金拡大、加工施設整備への資金援助などが実施され、その後も様々な追加支援策が行われてきました。また、2月1日に発表された2025年度（2025年4月～2026年3月）の予算案でも、水産業や養殖業を支援する枠組みの導入が提案されています。

2022年のインドの水産品生産量は、中国、インドネシアに次ぐ世界第3位で、世界の生産量の約7%を占めており、直近では約1,577万トンと増加基調にあります。



## ▶ インドの水産業はまだ発展途上

インドの海岸線は日本の海岸線の約5分の1ですが、水産業が拡大している背景として、内陸で輸出用のエビ養殖が盛んになっていることなどが挙げられます。田畑から養殖池への用途変更が増加しているわけですが、これは農業よりもエビの養殖の方が儲かるためと言われています。インドの水産品輸出の約3分の2は冷凍エビとなっており、冷凍魚、冷凍イカなどが続きます。

現在、インドの水産品輸出額は世界第6位となっており、重要な外貨獲得手段の1つとなっています。国際的な信用力や対外債務の返済能力の向上にも寄与することになり、インドにとって大きなメリットになっています。

## 世界の水産輸出額上位国

(2022年)

1	中国
2	ノルウェー
3	ベトナム
4	エクアドル
5	チリ
6	インド

## ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会